

## 下野コミュニティエフエム第19回放送番組審議会議事録

開催日時：2023年8月10日10時00分より	開催場所：下野市役所第302会議室
出席委員：猪瀬・鈴木・松本	：3名

※発言については趣旨を変えない範囲で一部を省略・要約し、順不同で記載しています。

委員全5名のうち3名の出席をもって会の成立とし、10時00分に開会した。

## 1. 報告事項

事業者より前回審議会以降の運営報告があった。

- ・7月22日に下野市との連携で特別番組を天平の丘公園から燈桜会に合わせて放送した。現地のサテライトスタジオで17時から19時まで生放送をした。
  - ・7月に国からのJアラートの試験がある予定だったが、2回とも中止または延期され、今月23日に実施の予定である。
  - ・夏になり市内でもイベントが多くなっており、できる限り取材させていただいている。
  - ・10月に開催予定の産業祭に出展する予定で、会場から生放送を計画している。
- (ケーブルビジョン株式会社ラジオ事業部放送局長)

## 2. 審議事項

### ■議題①…番組内容について

事前に送付した資料(記録物)を各委員が聴取し、それに対して各委員が意見を述べた。  
※2023年7月13日放送「ゆうがおパラダイス」

事業者：  
(番組の説明)

猪瀬委員：

- ・トークに覇気がない気がした。リスナーの想定が若年層なのでそういうものかと思うが。
- ・テーマが「夏の夜の過ごし方」だったが、実際のトーク内容は自分の想像とは違った。メッセージも1件程度しか届いていなかったようだった。
- ・チェックマガジンでの掲載内容の紹介の際に、中学生の名前を誤って紹介していたが、クレームなどはなかったか。誤りがあった場合はどう対処しているのか。

事業者：

名前の誤りの苦情は特に届いていないが、本人か職員が気付いた場合は訂正を入れる。

鈴木委員長：

暴言はないだろうが、誤りや不適切な発言はすぐ訂正するのがトラブルを防ぐためにもよろしいかと思うが、そういったものがあつた際はどのように対処するのか。

事業者：

基本は番組を担当するパーソナリティ本人が誤りに気付けば番組内で訂正を入れるか、放送管理の職員が発言も含めた番組内容をチェックしているので、本人が気付かなければパーソナリティに訂正を促す。

ただし職員が少人数で番組は多いため、気付かないままになっていることも少なくない。

鈴木委員長：

テレビ局でも失言などを謝罪している場面があるが、リスク管理の一つなので検討する必要があるかと思う。

松本委員：

パーソナリティが一人というのは費用の面もあるので致し方ない部分もあるだろうが、一人だと単調になりがちで飽きる。

全体的な番組内容は良いと思うが、費用のかからない方法でゲストを入れるなどして、番組に変化を作ればもっとよくなるのでは。

事業者：

以前にもご指摘をいただいた。費用の面もだが、それより募集しても人材が集まらない。

ほとんどのパーソナリティは一般市民であり、普段は他の仕事や家庭生活をしている。そのため各番組に1人を配置するのが手一杯で、1番組に2人というのは現状難しい。

4月と10月に番組改編がありその度にパーソナリティを募集するが、応募は1人2人。しかも半年毎の契約なので、改編を機に辞めたり担当日時の変更を希望する場合もある。

しかしご指摘の通りのこともあるので、各方面の協力を得て人材募集を今後工夫して、番組をさらに充実させたい。

松本委員：

毎回1人で担当しているのがネックなのでは。毎週決まった日時に来て番組をしないとまらないのは辛い。1つの番組を2人のパーソナリティで担当して2人でやってもいいし、2人で交代というのはできないのか。

事業者：

管理上の問題や、番組内容に連続性が保てない、リスナーに定着しない、などが生じ、現実的には難しい。

しかし、ご意見を参考に今後柔軟に考えたい。

松本委員：

パーソナリティは「市民パーソナリティ」だが、採用は市民に限定していないのか。

事業者：

限定はしていない、というか限定できない。開局時は市の広報にも載せていただいて、市民を中心に40名ほど集まったが、その後は求人誌などを使って募集しても、市内在住に限ってしまうとなかなか集まらないのが現状。従って、宇都宮や小山など県内だけでなく埼玉や東京の者もある。それでも前述の通り集まらない。

しかしやはり地元在住者で何十人とは言わないが数名は集められるよう工夫を考えたい。

鈴木委員長：

近隣のアナウンサー養成をしている専門学校などに声を掛けてみてはどうか。

松本委員：

アナウンサーだけでなく声優などの学校でもよいのでは。

鈴木委員長：

- ・男性パーソナリティの番組が審議対象になったことはあまりなかったのが新鮮だった。語調・テンポ・声のトーンなど、落ち着いた雰囲気でも聴きやすかった。
  - ・ただ、トークの中で「うん」が多く、自身のトークに自身で納得しているかのような、話し癖なのだろうが耳障りと感じた。
  - ・先刻も意見があったが、テーマは季節に合っていて良かったが、情報発信が少しあると もっと良かったと思う。メッセージも少なかったように思う。
  - ・エンディングで竜巻注意情報が出た旨の注意があり、危険を感じたら逃げましょうとのトークがあったが、竜巻に対しては逃げるのではなく堅牢な建物内に入るのが一般的で、逃げろというのは適切でないのでは。情報として正確にすべきではないか。
- 放送する側として責任があるのでは。

事業者：

- ・男性パーソナリティが少ないのはラジオ放送では共通で、やはり女性パーソナリティがどこでも多い傾向があるため、男性パーソナリティももう少し欲しいところではある。
  - ・ご指摘のあった話し癖については注意したこともあったが直っておらず指導不足である。本人も気を付けるとのことだったが、つい出てしまうようだ。癖だから良い訳ではなく、引き続き指導していく。
  - ・テーマについては猪瀬委員からも先刻ご指摘をいただいたが、テーマの選定は難しく、テーマが広過ぎるとメッセージがあまり来なくなり、細かいテーマだと毎回考案するのが大変になってしまう。
- この番組は映画やミステリアス話題が特徴で、ニッチでマニアックなトークが際立ち、リスナーもそれを楽しみにしているのがテーマの印象が薄くなっているのかも知れない。
- 他のパーソナリティにも言えるが、テーマの選定は日々精進していただきたいところ。
- ・エンディングの竜巻の件は、注意情報が出て、エンディングの短い時間内でせめてもの注意喚起としてそのようなトークをしたのだろうと推測されるが、委員がご指摘のように人命に関わることなので、正確を期した情報提供ができるよう他のパーソナリティも含め、一層の指導をしていきたい。

#### ■議題②…その他の事項について

- ・災害発生時の体制について質問と意見があった。

### 3. その他

- ・次回の開催日時を事務局より提示した。

以上、11時00分に閉会した。